

令和5年度保健消防委員会行政視察報告書

保健消防委員会委員長 小坂 さとみ

【視察日程】 令和5年12月1日(金)

【視察委員】

委員長 小坂 さとみ

副委員長 須藤 博文

委員 岡崎 純子、野島 友介、渡邊 惟大、椛澤 洋平、伊藤 康平、
植草 毅、川合 隆史、米持 克彦

【視察地及び調査事項】

青葉病院、海浜病院

・市立病院の現状について

【視察報告】

1. 青葉病院

調査目的	青葉病院を視察し、運営状況や今後の課題等について調査を行う。
視察概要	<p>1 調査項目 市立病院の現状について</p> <p>2 対応者 千葉市病院事業管理者、青葉病院長、看護部長、事務長、医事室長 病院局経営企画課総括主幹</p>  <p>【職員から説明を聴取】</p>  <p>【病院内を見学】</p> <p>3 主な質疑応答(□:質疑、■:答弁) □職場環境の改善などについて、何か要望があれば聞きたい。 ■雨漏りなど、あちこちに不都合なところがあるので、20年経過した部分での修繕と、今の医療体制に応じて変えられる部分は提案をさせていただこうと思っている。 また、青葉病院の病床を40床、新病院のほうに移行した後の空いた部屋の利用については検討中だが、そこでも改修が必要になってくる可能性が高いので、こちらもいずれ要望を出させていただこうと考えている。</p>

- 青葉病院は中規模の病院である。得意とする分野で患者を増やしていくことが激戦の中央区で生き残っていく方法だと考えている。
- 病院の一般的な耐用年数は40から50年ぐらいだとすると、あと10年後には、次の青葉病院をどうするかという議論が出てくる。10年後になったときに、この先の千葉市の医療をどうしていくかというのを、今から考えておかななくてはいけない。青葉病院が、どの場所で、どういった機能を存続していったほうがいいのかということも、お考えをいただけるとありがたい。
- 長年ずっと海浜病院をしっかり維持、修繕してこなかったことよっての老朽化対策に、莫大な金額を投資しなければいけなくなったということやをずっと指摘させていただいてきた。やはり建物は、病院に限らず、どういったものであっても適切な対応をしていかなければ、当然朽ちてしまうから、必要なところには必要な財源を投じて直していかなければいけないと思っている。
- なぜ建設費にこんなにお金がかかるのかとか、なぜ収益が上がらないのかとか、政策的医療が必要なのは分かるが、なぜお金がそこまでかかるのかというところを、もう一度整理して理解していかないと、これからの千葉市の病院医療体制をどう位置付けていくのかという判断がなかなかしづらいというのも課題と思っている。千葉市としての今後の病院医療体制をどうしていくのか、この激戦区の中央区の中で、この青葉病院をどう維持していくのかということは、しっかりとまた考えていきたいと思う。
- 青葉病院と海浜病院の設置の意味はどこにあるのか。市立病院は、民間病院と全く違う、公平性、公立的である。公立病院である青葉病院の特徴はどういうところに持っていくのか、その考えを聞きたい。
- 海浜病院と青葉病院を比べたときに、例えば整形外科、産婦人科など、統廃合をして特色を出そうという働きかけのもとでやっていったことがあるが、実際のニーズに乖離が生じてくるということは割とあったと感じている。
- 実際にデータで見ると、令和5年4月からの6か月で、青葉病院の紹介患者7,300人あまりで半数以上が中央区、緑区、若葉区である。稲毛区、美浜区、花見川区の3区は合わせても20%いかないぐらいである。青葉病院がなくなったら、患者はどこに行くのかなど、その辺の地域のニーズも踏まえながら、この病院をどのように持っていくかが重要と考えているので、特色化というのはその次に考えていきたい。
- 我々は、当然2つの市立病院が必要であるという認識を持っている。市のマネジメントのやり方は理解するが、一般の住民には伝わっていない。市民病院として見ている。その辺を非常に強調して、厚生労働省にきちんと対応できるようにしていただきたい。

■数年前に青葉病院は、この地域の公立病院の、厚生労働省の統廃合対象の424病院の1つに入り、本当に屈辱的な思いをしたけれども、幸か不幸か、その後コロナ禍が訪れて、結果的にはこの病院の存在を非常に象徴できた。おそらく今この病院を統廃合対象にするという考えはナンセンスだと思う。

やはりそういう意味では、必要性を強調していくという形で、この病院の特殊性とかをアピールすることが重要だと思うので、行政側に対する働きかけを積極的に行っていきたい。

□青葉病院の救急は、輪番制でも受入が非常に多いが、早く救急車を呼んで受け入れできるような体制を作っていくことが市の課題だと思う。その辺の取組の中で、今後青葉病院の中で力を入れて、改善していける見通しがあるのか。

■救急の改善点については、今問題になっているのはスタッフの確保である。本当に毎日努力させていただいているが、この4月から施行される医師の働き方改革もあり、全国で救急医師が不足している。

千葉市の状況を踏まえて、当院にふさわしい優秀な方がいれば、積極的にぜひこちらに赴任していただくという働きかけは継続していきたいと思っている。

□緑区の住人から、市外にとにかく搬送されるという声を非常に多くいただいている。急性期病院が中央区に集中しているけれども、若葉区、緑区の医療的なニーズを踏まえて、立地という面でも、市全体的に見て今後のあり方を考えていく必要があると思うが、その見解について聞かせていただきたい。

■立地に関しては、今中央区に同規模の病院が幾つかある中で、もしここで継続するのであれば、厳しい医療状況で共倒れになってしまうリスクが非常に高いので、協力体制をもう少し違う形で作っていく必要があると考えている。

コロナも含めて、全く予想外のことが起こっているもので、10年後に医療状況はどうなっているのか、何が必要になってくるかなど、正確な予測は難しい。

緑区、若葉区を視野に入れて、もう少し重点化する意味で位置を考えなければいけないが、数年の状況を見ないと、立地的なことに関しては明確な答えが出てこないと考えている。

■青葉病院が存続していくためには、特色を生かしていくということと、患者を集めないといけない。青葉病院では、現在、病床稼働率が約8割。一般病院、いわゆる私立病院での収支は、患者が9割以上入らないと成り立たないというのが常識である。

青葉病院を建て替えるとすると、これ以上に患者を集められる場所でないといけない。緑区に建てる場合は、主要な駅のすぐ近くではないと、集患が非常に難しいと考えている。緑区は、医療圏は違えど、千葉ろうさい病院、帝京大学ちば

	<p>総合医療センターが近くに存在しているので、その辺は慎重に考えていかなければいけない。</p> <p>また、千葉市は市立病院の海浜病院と青葉病院のほかに、あと国立の千葉医療センター、私立病院の千葉中央メディカルセンター、みつわ台総合病院があるが、10年後にどういった経営をしているかは全く分からない。</p> <p>昨今の物価高騰の状況だと、私立で新病院を作るということはもう不可能である。経営自体が成り立たないので、方向転換するところもあるかもしれない。そうすると、より公的病院の役割を果たさなくてはいけなくなってくるので、この10年間の様子を見ながら、それまでに皆さんと考えていかなければいけない。</p> <p>□さっきコロナ病棟を見たけれども、現場の方は相当疲弊されていると思った。職場環境について、改善要望があれば、聞きたい。</p> <p>■コロナ禍でかなり看護師は本当に頑張ったと思う。自分たちの生活もかなり犠牲にしながら医療に貢献したと、本当に強く思っている。</p> <p>今後もやはり医療、看護を続けていけるように、カフェや休憩室だったり、コロナ禍で距離を確保できる環境を整えていきたい。</p> <p>また、患者のための療養環境をやはり整えたい。例えば、患者がずっと使用しているベッドなどを適宜入れ替えていけるようにしたいと思っている。</p>
<p>主な 委員所感</p>	<p>○近年、健康を害する人が増加しているにもかかわらず、未来の医療収益を確保していくことが相当困難であることを知った。</p> <p>「10年後以降の千葉市の医療像を考えるべき」という病院事業管理者の発言は、その通りだと思う。誰が考えるのかについて、私は実は市民の声を聴くこと、話し合うことが最も必要だと思う。高度な医療技術により、国の医療費は増加し、国保負担額も増加せざるを得ない状況にある中、今までの病院とは別の視点で考えてゆく必要があるのではないかと思った。</p> <p>○コロナの状況がひどいときに支えていただいた青葉病院の現場を見ることができた。現在もコロナのほか、インフルエンザ、結核、0-157などで苦しむ患者の対応に追われている様子を拝見した。</p> <p>病院自体も築20年となり、雨漏りしている部分や手狭になっている部分も見受けられる。さらにモノレール延伸(青葉病院前に駅ができる予定)もなくなり、交通アクセスも悪くなっており、改善の必要が高いと感じる。</p> <p>○薬剤部視察においては、最新のピッキング機械など取り違えを防ぐ手立てや、無菌室など薬剤師等を守る体制も整えられていた。白血病、がん治療に使用する薬剤(抗がん剤)の調剤についてはやや負荷が高くなっているように感じた。特に夜間の体制を整えるべきと考える。</p> <p>○2024年問題に伴う医師の働き方改革への対策として、特に救急医の確保は喫</p>

- 緊の課題であり、千葉大学医学部などとの連携を密にしていく必要性を感じた。
- コロナをはじめ感染症医療において千葉大学に並ぶ役割を担い、レアな皮膚科入院体制も持つなど、独自のカラーをきちんと確立されていると理解した（児童精神といえど35歳の患者まで診る、産科を除く婦人科を扱い、整形外科と総合内科をはじめ、血液内科、眼科にも強みがあるなど）。
 - 大震災の折も免震と耐震が働き、建物施設内にいるすべての方々をしっかりと守ったと伺い、民間に明らかに秀でる医療機関であると確信した。願わくば、利用者を一層増やし、千葉大病院を収益においても超えていただきたく思う。さらに、この病院では、スタッフの一人一人にまでホスピタリティが浸透しているような感覚もあった。
 - 普段は見られないような薬剤室や精神科の病棟を回れたので大変勉強になった。薬剤に関してはICT化(AI)が進んでおり、ヒューマンエラーが起こりづらい環境だと感じた。今までは病棟での内服薬の振り分けを看護師が行っていたのを、外部へ一部委託することで職員の負担を軽くできている、このような取組は素晴らしいと思った。
 - 建物としては20年が経過し、雨漏りをしているところもあり、修繕を進めていく必要がある。現場の意見を取り入れ、ベッド等の新しいものへの更新も積極的に行っていくべきだと思う。
 - 約20年経ち、雨漏り等もあるものの、全体的に清潔感と開放感が保たれており、市民病院にふさわしい状態である。
 - 院長、医師、各医療スタッフが高い意識をもって、市民の健康と生命維持に全力で取り組んでくださっていることが、強く感じられた。
 - 救急医療について、救急棟にCTが併設されていることは、安心につながる。動線が広く片付いているので、圧迫感や不安感のない雰囲気を作られていた。
 - 薬剤部、ME(臨床工学科)は患者からは見えにくい部分だが、安全な管理が効率的に行われているように感じられた。注射薬のマシンなど印象的であったが、市民に知っていただく機会を増やしたほうが、安心安全な生活につながるだけでなく、予算について理解を得やすいのではないかと。
 - 市立病院に成人精神科病床が復活することは、地域移行につながる重要な一歩であると思う。
 - コロナ最前線であった病床を見ると、現場の皆様の大変なご尽力を実感できた。報われたと感じていただける待遇が求められる。
 - 病院激戦区の中で存在意義を保ち、民間や国立が拾えないニーズをしっかりと受け入れていただけるよう、市全体で支える必要があると感じた。ニーズについて、ビッグデータ分析なども役立つのではないかと考えた。
 - 青葉病院から新病院へ40床移行していくとのことであり、成人精神は次年度再

開意向ということはよかったと思う。

- 急性期病院が集中している状況において、今後千葉市内全域への医療提供を考えると、立地のあり方も考えていく必要があると感じた。指定医の不足がある中で、医療連携、サポート体制を強化していくことが大事と感じた。
- 患者のベッド更新など、要望に応えていけるよう声を上げていきたい。
- メディカルセンターなど、中央区に集中する病院、医療の分散化は課題。診療科目に対する医療と看護体制の確保が課題である。青葉病院もこの10年以内に建て替えも考えていかなければならない。病院も含め行政の働き方改革が求められており、超過勤務の改善が求められている。中央区内の病院内連携を図り、相互協力関係を築くことが必要。病院の特色を持つこと、医業収益を上げることも政策的医療による赤字についてしっかり考えることが大事であることが分かった。
- 20年の月日で建物の老朽化に対応しなければいけない時期に来ている。段階的なりニューアルをしていかないとかえって維持費がかかってしまうと思われる。その際は働く方の環境を整備する必要がある。
- 病院を実際に見ることによって、現状について多くを知ることができた。青葉病院は築20年となり、今後の運営を含めた計画や、予防的修繕を行うことによる長寿命化への取組など、計画を見直す時期であると感じた。300床程度の病院としてどのように地域に根差していくか、千葉市としても方針を明確に把握する必要があると思った。アクセス等、昔からの課題に対してどのように対応していくかも重要であると思う。収益に関しては市として市民から求められる高次医療を考えながら、地域の医療行政とのバランスをしっかり果たしていけるよう運営に努め、市としてリーダーシップを発揮できるように努めてもらいたいと思う。
- 百聞は一見にしかず。今回の視察は本当に勉強になった。青葉病院は現在20年経過しており、さらに20年経過した場合においては、建替問題が出てくるとの説明があった。私は建替問題以前に存在化が問題になってくると思っている。青葉病院から5分の所に千葉大学の附属病院が存在し、さらに周辺にはその他の総合病院が存在している環境にあると厚生労働省は建替の際、必ず同じような機能を持つ総合病院は必要ないと指摘することは十分に想像できる。そのため、今からでも青葉病院の存在理由を立証できる機能を持ち、住民の方々にとってどうしても必要な病院であることを立証しておく必要がある。実際は現在の千葉市の広域性から見ても、若葉区、緑区、中央区の住民の方々にとっては、必要欠くべからずの公立病院であることは間違いないという事実がある。千葉市においては、この地域にはどうしても必要な公立病院であることは間違いないと同時に、特色を持った病院であることを客観的に分かるようにしておく必要がある。

2. 海浜病院

調査目的	海浜病院を視察し、運営状況や今後の課題等について調査を行う。
視察概要	<p>1 調査項目 市立病院の現状について</p> <p>2 対応者 千葉市病院事業管理者、海浜病院長、副院長、診療局長、看護部長、事務長、医事室長 病院局経営企画課総括主幹</p>  <p>【職員から説明を聴取】</p>  <p>【病院内を見学】</p> <p>3 主な質疑応答(□:質疑、■:答弁)</p> <p>□以前、エレベーターの数が足りていないと伺っていたが、いろいろなところに影響が出ているのか。</p> <p>■大きなエレベーターはいくつかあるが、入院ベッドを入れてしまうといっぱいになってしまう。新病院ではもちろん十分余裕のあるエレベーターになっている。</p> <p>□老朽化による影響は起きているのか。</p> <p>■老朽化による影響というと、空調が部屋ごとでの独立での温度設定ができないと</p>

いうのがある。集中管理で、どうしても部屋によっては、暑いとか、逆に寒いとか、患者からもそういう声をいただいている。

あとは温かい食事、あるいは冷たいものは冷たい状態で食べたいという要望に対応できない状況であり、これも新病院では何とか実現できればと考えている。

待合室、手術室等も手狭なので、新病院では、そういった点に関してはしっかり配慮している。

産科の無痛分娩については、今後どのように取り扱うのか。

■今は、いわゆる心臓疾患を持っていて、以前手術をされたような妊婦は、本人と相談して無痛分娩にしている。その際、麻酔科の先生と相談しながらやっているが、産科麻酔をやっている先生はなかなか少ない。無痛分娩の方はどんどん増えてきているので、新病院になった時点で、ある程度希望があれば、できる方向にはもっていきたいと思っている。

NICUで低出生体重児を見させていただいて、命を守るという、非常に重要な病院になられているということを改めて感じた。

救急科外来も見させていただいて、非常に狭い空間の中で大変な活動をされている気がしたので、今後新病院に移行するに当たって、機能やスペースを含めて、拡充される見通しなのか。

■NICUは、現在21床で、新病院では24床で運用していく予定である。救急に関しては、現在狭いところを工夫して3症例同時に診られるが、新病院では処置室と救急棟という形で、五、六名ぐらいは同時に診られると思う。

また、感染症対策としても、陰圧室も院内に設置しているので、現状と比べれば、療養環境に関してははるかに改善されている形で設計している。

新病院に対して、働く方々、特に看護師が、これから期待するところがあれば、一言いただきたい。

■働く環境としては、ハード面で、更衣室とか、休憩室とか、仮眠室は、新病院では結構揃えていただいているが、それとは別に、女性が多い職場なので、やはり働き続けられる体制というのを考えていかなければ、夜勤をやる人がいないとか、短時間しか働けない人がいるので、そういうことは考えていかなければいけないと思っている。

若い看護師が多く働いているけれども、産休であったり、育休であったり、そういうところをお互いにフォローできるような、働きやすい環境というか、本当に働き続けたいと思うような病院づくりを目指していただきたい。

	<p>□両市立病院が今後目指すところを、お話いただきたい。</p> <p>■青葉病院のほうは、築20年ということで、あと最低約20年この場所で頑張っていないかなくてはいけない。その中で何を市民に提供できるか。中央区ではたくさん急性期病院があるが、それぞれの病院が同じ医療を提供しているわけではないので、他の病院では提供できないような、市民に提供できる医療を中心にして、青葉病院では頑張っている。</p> <p>また、424病院という不名誉な、いわゆる統廃合すべき病院、なぜかと言えば隣に大学病院があるからという指摘を受けた。距離的に言っても歩いて5分のところに500床以上の大きな病院があるので、まとめればいいと言われるのは当然ではあるが、大学病院は高機能病院と言って、性質が違う病院である。</p> <p>千葉市は特殊なセンターやこども病院はあるけれども、青葉病院や海浜病院のような一般病院、特に公的病院が少ないので、そういった意味で、中央区、緑区、若葉区を中心にこれからも頑張っていって、20年後をどうするかは、これから皆さんと一緒に考えていく。</p> <p>海浜病院のほうは、病院があまりないところで頑張ってきた。地域政策としては、千葉市だけでなく、市原市、八千代市、習志野市のみならず、千葉県内の低出生体重児を引き受けている。これからも政策医療として引き続き続けていかなければいけない。千葉市で、子供に熱が出て、具合が悪くなったときに、受けってくれる病院は海浜病院しかない。そういった意味では、これを新病院でもやっていく。なおかつ、高齢化社会で、高齢者の人口が増えてきているので、整形外科、泌尿器科、呼吸器科等をこれから整備して、地域周産期とともに、高齢者も診られる病院にしていきたい。</p> <p>ただし、現在、海浜病院の病床稼働率は約6割から7割。これは小児科の病床が多いということと、古い病院でベッドを増やせないということとか、いろいろな不祥事も確かにありました。これを新病院では、85%ベッド稼働というのを目標に収支計画をしている。普通は6割が85%になるというのは非常に難しいが、新設の科を中心に集患をしていって、収支を頑張って上げていこうと考えている。</p> <p>とにかく減価償却費が過大にかかる予定なので、その辺の負担と医療等をよく見ていただいて、どこまでが千葉市民に対してフェアであるかということ、議員の皆さんとともに考えていっていただきたいと思う。</p>
<p>主な 委員所感</p>	<p>○海浜病院は周囲の船橋市、八千代市、習志野市の総合病院と比較される。千葉市民でありながら他の市の総合病院にかからなければならない状況があるとの苦情が寄せられる。しかし、海浜病院の役割の大きさを今回の視察によって再認識した。</p> <p>特に、周産期、救急医療の果たす機能の大きさを再認識した。周産期医療については、この診療科の存在によってどれだけの赤ちゃんの生命が助かっている</p>

か、現在の日本の少子化対策に貢献しているかを目の当たりにした。
救急医療の存在については、この科目によって、どれだけ市民の方々が助かっているかが分かった次第である。後は、市民病院としての機能を充実させてもらえれば申し分ないと思っている。特に高齢化対策の整形科目の充実を要望する。

○施設面では老朽化が進んでいること、エレベーターの個数も少なく狭いと感じられた。海浜病院建て替えの際には利用者、スタッフに不便のないよう配慮を求めたい。

○現在、海浜病院において原則無痛分娩は行われておらず、その原因は産科麻酔医との連携が難しい点にあるとのこと。令和5年 12 月現在、多くの民間病院においては、患者さんの選択によって無痛分娩も希望できるようになっているので、新病院に移る際には安心して出産できる環境づくりが重要と感じた。

○看護師、薬剤師など女性の多い職場にということで、産後も働き続けられる環境をつくるうえで、病院職員の皆さんの声を改めて聞かせていただきたい。

○周産期医療、がん診療など特色を伸ばし、千葉市民が安全・安心して暮らせる社会の一端をしっかりと担ってほしい。病床稼働率を上げるよう対策を考える必要がある。

○リニアック導入により、副作用の少ない放射線治療を政令市の市立病院が提供できることが非常にすばらしいことと感じた。2022 年にスタートした優先的に収容すべき救急病院に指定されてから、青葉病院とともに、受け入れのご苦労も多かったと思われるが、今年度は6千件を超える搬送を受ける見込みと伺い、ご尽力は早々に可視化されていくものなのだと知った。

市内唯一の周産期医療体制を有し、県内最大のNICU21 床も備えられ、千葉市と近隣市民の受診が市立病院でほぼ完結できる日も遠くないように思う。

○廊下や窓の枠等の老朽化はやはり大きく目立っていると感じた。しかし、広いNICUでは感染の心配が少ない(ソーシャルディスタンスが保たれている)ことや、小児科では職員のいろいろな工夫があり明るい雰囲気になっていると思った。

救急外来では常に忙しく働いている職員を見て、感謝の気持ちでいっぱいになった。しかし、病室を含めた診察室が狭く、とても動きづらいうように見えた。新病院では改善されていることを願う。

○施設の老朽化の中でも現場の方々が工夫をされ、何とか保たれている部分を感じられた。特に救急医療で顕著に感じられた。

○青葉病院と同じく院長、医師、各医療スタッフが高い意識をもって、市民の健康と生命維持に全力で取り組んでくださっていることが、強く感じられた。

○周産期小児科病棟は、母子の立場に立った充実した医療環境への尽力を強く感じた。

<ul style="list-style-type: none">○超低体重児へのケアの最前線に巣立った子供の写真があり、現場スタッフへの患者への思いを感じ、心強かった。○リニアックを実際に見られて参考になった。市民へのさらなる発信が予算への理解や安心につながると思う。○エレベーターが混み合っており、狭く感じるエレベーターも多かった。治療への影響も含め、新病院完成の必要性を強く感じた。○NICUは県内最大の21床であり、24時間体制で低出生体重児の命を預かる取組を視察できてよかった。○救急受入件数が市内2位、小児は1位ではあるものの、診察室など不足している状況があり、新病院で拡充していくことで市民への医療体制としていけるよう求めていきたい。○救急医療の必要性に関しては、お金では測れないものがあると感じた。人を揃えることの苦労を実感した。
